

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871101537		
法人名	社会福祉法人 晋栄福祉会		
事業所名	グループホーム宝塚ちどり		
所在地	兵庫県宝塚市亀井町10番30号		
自己評価作成日	令和3年2月16日	評価結果市町村受理日	令和3年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和3年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設ではご利用者の自己決定を尊重しご自身が自由に生活できるよう自立支援を行っている。自己決定する事でADLやQOL向上に繋がっていくことを目指し、ご利用者の生きがいを見出すよう取り組んでいる。また職員と一緒に生活を共にする事で生まれる信頼関係を大切にしている。今年度は新型コロナウイルス感染予防の為、遠足や外出する機会がなく施設内で食事イベント・食事レクリエーション(リクエスト食・行事食・たこ焼き・お菓子作り)に力を入れている。施設内でも地域と交流できるよう食材を主に配達してもらう事で地域と関わられるようにしている。特別養護老人ホームや診療所が併設されており、重度化への対応、ターミナルケアの実施など連携を取っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同一法人の診療所があり、密な医療連携が可能である。毎年、地域の行事に参加したり、地域住民を招いたりと交流が多い施設ではあるが、コロナ下、それらがすべて中止となっている。外出を自粛する中で、「アットホームで生き生きと」暮らせるようにと利用者へ寄り添い、ともに家事をしたりレクリエーションを充実させる時間が多く持てた。利用者の楽しみである食事にも気を配り、普段から食べたい物の把握に努め、天ぷらを揚げたり、事業所外で焼き鳥を焼く等、楽しい食事の時間を大切にしている。毎年、家族も楽しみにしている遠足も、今年は感染防止で中止となり、残念がる言葉が多く寄せられた。感染防止に努めた結果、インフルエンザの感染者もなく、利用者は事業所を自分の家としてゆったりと暮らしている。そんな利用者の「いきいき」とした表情を、これからも守ってほしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月2回行うユニット職員会議で、グループホーム独自の方針を協議・設定し、日々の業務の一つ一つが理念に基づいて行われているかの振り返りを行っている。	法人理念と事業所理念を、玄関に掲示して周知している。職員は、利用者のホームであることを念頭に、利用者が自分の暮らしを生き生きと過ごせるように寄り添い、見守り、支援している。利用者の出来る力を見逃がさずに気付くことが出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材購入時は地域の商店と連携し、時には訪問販売も受け入れている。地域で開催される催しへの参加や近隣の散歩、買い物同行は新型コロナウイルスの影響で今年度は実施していない。	コロナ下、地域とのふれあいの機会が失われ、利用者にとっての外出の機会、家族に付き添われて他科受診する程度である。毎年の正月に小学校で実施されるとんど焼きは、利用者の楽しみとなっていたが、今年は施設代表として職員だけが参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設するデイサービスやショートステイのご利用者等からの問い合わせにも適切に対応し、方針や取り組みについて応えている。認知症実践リーダー研修を修了し、さらに事業所の機能を反映する構えがある。毎年地域の方向けに介護講習会、認知症予防講習会を開いていたが今年度は新型コロナウイルス感染予防の為実施を見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染予防の為、資料の配布を行い質問等あれば受け付けている。	コロナ下、運営推進会議は書面開催となっている。家族には議事録を閲覧できることを伝えており、面会時にゆっくり読んでもらえるように議事録のファイルを渡したりしていたが、現在は面会禁止となっているため、議事録を閲覧してもらえない。	運営推進会議の書面開催はしばらく続く模様なので、メンバーへ議事録を送る際に、意見等を書いた返信をもらえるような働きかけをされてはいいかがか。また、家族への議事録の送付を考えてはいいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に運営推進会議に参加をお願いしているが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり推進会議の議事録を送付している。事故が発生した際には、速やかに報告書の提出を行い、事故防止に向けた話し合いを行っている。例年は施設の行事(納涼祭等)へ招待し、利用者との交流を図っている。第三者外部評価への意見交換を行い、日常的にやり取りしながら質の向上を図っている。	職員のPCR検査や利用者へのワクチン接種の件等で、市から情報をもたらされることが多い。運営推進会議の議事録を送った際に、市職員から内容の詳細について質問されることもある。地域の事業所連絡会が無いが、運営推進会議にお互いに出席している事業所とは、わからないことを連絡する等の交流がある。	地域の事業所連絡会を立ち上げる働きかけをされてはいいかがか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居前の重要事項説明にとどまらず、ご家族からの要望があった際にも、他の代替案を示す等、常に高い意識を持っている。宝塚ちどりの運営会議でも特養と情報交換を行っている。	身体拘束適正化のための事業所の指針を作成しており、現在、委員会で内容を確認している。家族は職員に迷惑を掛けたくないという想いから、玄関の施錠やセンサーマットの設置を願いがちだが、家族と話し合って検討のうえ拘束のない介護を目指している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修と、法人内で設置している虐待防止ワーキングチーム主催の研修にて学ぶ機会を設けている。	法人内で虐待防止ワーキングチームが活動しており、コロナ下でのイライラした気分を無くすよう、アンガーマネジメントについて研修を実施している。パート職員や夜勤職員も勉強できるよう、伝達研修を行っている。職員面談を年2回行う中で、資格取得やストレス解消方法等について、管理者はアドバイスをしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人や保佐人との連携も図り、ご利用者の状態の報告も行っている。またグループホーム独自で権利擁護に関する職員研修を行っている。	入所前から制度を活用している利用者が複数名いる。制度について事業所内で学ぶ機会を設けているが、職員が詳細な知識を持っているとは言い難い。契約時に、制度についての紹介はしていない。	利用者、家族へ「成年後見制度」や「日常生活支援事業」についての情報提供をしていただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度の改定等は家族会にて説明している。要介護度の変更に伴う利用料金の変更等が発生した際は適宜説明を行っている。	契約時に、看取りや延命に関する事業所の指針を説明し、意向確認書にサインをもらっている。その後の再確認は、家族の気持ちに変化があったときと利用者が重度化に至った時点で行うことにしている。家族からは加算等、費用に関する質問が多く、丁寧に説明して納得を得ての契約となっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年までは運営推進会議に、利用者代表やご家族の参加、また有識者代表として介護保険オンブズマンにも同席を依頼しご利用者やご家族の思いや不安を聞き取って頂いたが、今年度は開催を見送り書面を送付している。	家族からの要望を聞き取れているかどうかや、利用者の想いを表す些細な表情の変化やしぐさ等に気付くことのできる観察眼を持つようと、職員に求めている。予約制のWEB面会を隣接事業所のコミュニティルームで実施している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で運営について協議している。さらに人事考課にて職員よりの意見を聞く機会を設け意見を反映させている。	職員からの提案や意見は会議の場や随時に出され、会議の中で全職員で検討している。職員の口調がきつくなっていると管理者が感じた時や、職員から相談があったときは、アンガーマネジメントの研修動画を見てもらう等、対策をとっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課制度にて、勤務状況を見直す機会を設け、給与にも反映している。また、個々にも個人目標とを掲げ、達成努力を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTをはじめ、介護技術研修、認知症、感染症等必要な研修を実施している。法人独自の制度に則り専門性向上に向けた研修に参加するように働きかけている。新入職員に向けては毎週新人研修を開催している		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年までは様々な研修や勉強会への参加を通して他の事業所との交流を図ったり、他のグループホームと運営推進会議を歩き来し情報交換に努めていたが新型コロナの影響で実施できていない。見学者や実習生の受け入れを行うなどしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居への安心感を持って頂けるように要望・不安なことを傾聴し、困っていることがないか常に見守っている。またご利用者が相談しやすい雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より、今までの生活の状況や困っていること・不安なこと・要望等を伺う。ご利用者との関係の継続と協力を依頼している。入居後の様子については、ご家族との電話連絡等も入れ、様子を伝えている。また、普段の状態との違いを教えて頂き、ケアを考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新入居の際に、新しい生活に慣れる為の期間としてショートステイでのご利用可能を説明し、ご本人・ご家族の意向を発言できる機会を提供し、隣接する特養や在宅部門と連携し、必要な援助に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の調理・家事を共同にて行い、共に過ごしている実感を持って頂き、互いに信頼できる関係作りを目指している。外出などの機会にはお世話をさせて頂く立ち位置から一歩踏み込み一緒に楽しんで体験するというスタンスで挑んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様子・状況の報告を毎月の手紙や来所時に伝え、体調・状態の変化時にはその都度ご家族に連絡している。例年は外出イベントや施設内イベントも広く参加頂いているが、今年度は新型コロナの影響で家族参加のイベントは開催していない。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの方との関係維持により生活の活力や楽しみ・安心を持って頂けるよう、職員もご家族来所時に情報収集をし、生活歴等の把握に努めている。	昔馴染みの人から差し入れを届けてもらっている利用者がいる。家族とはパソコンを利用したWEB面会が可能であり、コロナ下における楽しみとなっている。訪問理美容が月に3日来所するので、利用者は好きな時間に利用できる。利用者が希望するヘアスタイルにしてもらえるが、認知症状が進むにつれて、じっと出来る時間が少なくなり、カットのみとなっている利用者が多い。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の普段の関わりの様子を観察し、必要に応じて座席や居室の変更を検討し、共同作業・レクリエーション等の輪を大切にしている。ご利用者同士の関係性を考慮し外出の際などのメンバー選定を行っている。また洗濯物等ご利用者が各居室に配る事でご利用者同士の関わりも大切にしている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じて個別に対応し、併設している特養に入所、在宅復帰された方へは、情報の提供を行い、必要に応じてフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発言しやすい声かけ、選択しやすい問いかけを行い、意向の把握に努めている。困難な場合には、ご利用者の表情・仕草・様子の観察をし、出来るだけご利用者の希望に近づけるようにしている。またご利用者同士の会話の中からも要望をくみ取れるように努めている。	コミュニケーションの難しい利用者が数名いるが、職員は表情や仕草、様子を見て利用者の気持ちを推し量りながら、利用者寄り添う支援を行っている。職員が把握した利用者の新しい想いは、ユニット会議や申し送りノートで情報共有し、日々のケアへ繋げている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族より生活歴や趣味・習慣を伺い、居宅ケアマネジャーから情報を得て、サービスの経過等の把握に努めている。また居室では自宅で使用していた家具などの馴染みの物を使用して頂きこれまでの馴染の生活環境を継続できるよう配慮している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報は毎朝の申し送りと日誌にて共有している。毎月2回行っている職員会議では、職員の気づきを発信し意見の交換や対応を協議し、一人一人の現状の把握に努めている。ご利用者の状態に合わせた介助方法の変化などは連絡ノートなども使用しスタッフで情報共有している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者のADLなどに変化が生じてきた場合にはサービス担当者会議を行い一人一人の個別性とご利用者・ご家族の希望をお聞きして実現できるよう努め、自立支援を取り入れたケアプランの作成とご利用者が見ても分かりやすい文章にし意欲的な生活の実現に努めている。看護師も職員会議等に参加し協議している。必要に応じて特養の管理栄養士の助言を仰いでいる	職員は1~3人の利用者の担当をしており、居室内の整理整頓、衣服の管理等を行っている。毎月開催するユニット会議でケアプランの内容についての検討を行い、3か月後に中間評価、6か月後に短期目標を評価し、1年後の長期目標の評価を経て、ケアプランの見直しに繋げている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の何気ない1日の様子を記録するとともに、実践したケアの方法やそれによる効果やマイナス面など記録し職員間で共有し今後につなげるよう取り組んでいる。また1日の内で変化が顕著にみられる方に対しては個別の記録用紙を活用しより細かく記録する事で状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場・その時、必要に応じてご家族と調整し、臨機応変に通院の代行・買い物同行の支援や外部のサービス機関の紹介を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	有償ボランティアの通院介助を組み込む等、個別対応も行っている。昨年までは地域のボランティアにも協力を頂きハーモニカや生け花等していたが今年度は新型コロナの影響でボランティアの受け入れをしていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には協力医療機関の説明を行っている。以前からのかかりつけ医の受診を希望される場合は原則ご家族に通院のお願いをしているが、併設されている診療所でも診療情報の提供を行い、他の医療機関でも適切に受診ができるように援助している。その他ご家族の希望に合わせて以前から利用していた医療機関の往診なども受け入れている。	併設事業所内に法人の診療所が有り、内科と整形外科に関して2週間に1度の定期的な受診が出来る。以前からのかかりつけ医である眼科や心療内科の訪問診療を受けている利用者もある。他科の専門外来に関しては、基本、家族が付き添っている。歯科医が毎週来訪している。処方箋はかかりつけ薬局に集まり、薬剤が法人の診療所へ届いた後、看護師が事業所へ届けて服薬ボックスを管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時看護師との申し送りをを行い常に状態の把握に努めている。また体調不良が見られると、直ぐに報告・相談できる体制をとり、指示を仰いでいる。夜間はオンコール体制をとり、24時間の連絡体制を得ている。外出行事時には看護師付添にて看護体制をとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報や介護・看護サマリーにて状態・対応の把握をし、共有化を図っている。随時ご家族への情報の提供とご家族の意向を把握し、退院時には入院先の医師とご家族の話し合いにも参加するなどし退院後は診療所の受診を行い、連携を図っている	骨折や循環器系の疾患で入院した事例があり、緊急度によって入院先は異なる。いずれの場合も、入院中はケアマネが地域連携室へ電話をするか、病棟への訪問が許されれば見舞って情報を共有し、退院後のケアの準備をしている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りケアに関する指針を説明し納得いただく。法人内の看取り研修を毎年実施している。重度化になった場合には併設する診療所の管理医師より、ご家族・職員へ説明をし、方針を協議し、チームにて支援に取り組んでいる。	契約時に「緩和医療と看取り介護に関する事業所の指針」を説明している。看取り期に至った際には、主治医を交えて家族と相談の上、看取り介護の計画を作成している。毎年複数名の利用者を看取っており、看取りを経験している職員は多いが、看取り期には管理者はベテランの職員を出るだけ配する様にしている。DNAR(心肺蘇生を試みるか否かの意向)の確認書を作成したので、確認を順次行っている処である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤者が緊急時・AED研修に参加している。またオンコールマニュアルを見直し、夜勤者全員が受講し、併設する特別養護老人ホームの応援や緊急時の流れを確認できるようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎月実施し、避難経路・避難誘導所の確認をしている。防火管理者研修を受講している。また併設する特別養護老人ホームと合同の防災安全委員会に参加し、防災に関する意識を高めている。合同の避難訓練にも参加したりグループホームでの災害を想定しての訓練を実施し迅速かつ的確に対応できるようにしている。	夜間想定を含んだ年2回の避難訓練を隣接事業所と共同で実施しており、立ち会った消防署員からのアドバイスも貰っている。避難させる利用者の状態把握方法を、隣接した事業所と統一するという昨年度の課題は継続案件として残っている。隣接事業所が福祉避難所になっており、防災グッズと食糧品を備蓄している。	隣接している事業所の職員から災害発生時に応援を受ける場合、統一したルールを策定しておく必要があります。引き続き、「防災安全チーム」で検討をして頂きたいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄・入浴時には羞恥心に配慮し、オンブスマンの意見を参考にし、パーテーション等も導入している。また居室でのオムツ交換の際にはカーテンを閉めてプライバシーを守っている。共有スペースではトイレの声掛けも他のご利用者に伝わりにくいニュアンスで行うなど配慮している。居室に入る際には必ずノックや声掛けを行っている。	利用者へ呼び掛ける際には、基本、名字にさんを付けている。脱衣所に洗濯機が2台置いてあるが、職員が入室する際にはノックの励行を心掛けている。訪問診療や往診の際、簡単な問診の場合はリビングで済ませる事も有るが、基本は利用者の居室内で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向や希望を話しやすい環境作りと会話に努め、選択肢を準備し、選んで頂けるようにしている。自己決定が難しい方は表情や仕草から意向をくみ取り、こちらからの確認や言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅でしていた事(家事や日課等)を継続できるよう、その人の生活習慣を取り入れ生きがいのある生活を支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴や習慣、一人一人の個性を尊重し、自身にて整容出来る環境を提供している。脱衣所に化粧水を設置・髭剃りの声掛けをし、保湿・清潔保持に努め、個別にはご家族の協力や買い物にてヘアアクセサリ等を購入しおしゃれができるように働きかけている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好や味付けの好み・苦手な食材・メニューを把握し、個別メニューの提供も行っている。月に数回リクエスト食を取り入れている。ご利用者が自ら率先して食事の準備・片付けをされたり、個々の力に応じた言葉かけによって職員と一緒にいる。季節に合わせた料理(おせち・鍋等)も取り入れている。	主として、調理専門である2人の職員が、献立と調理を担当している。随時、リクエスト食として利用者の希望に沿った季節感のある献立にしている。忘年会ではカニ料理かすき焼きか好きな方を選んでもらった。焼き鳥を炭火で焼いたり、おやつレクではバナナチョコパフェなどを作っている。一人の職員が利用者と同じ献立を検食として食し、他の職員は休憩時間に弁当を食している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の病歴と状態・食事量・水分量を把握し、併設している診療所・管理栄養士との連携にて、体重の減少・増加に注意している。特に水分摂取の少ないご利用者へは看護師との情報交換に努めている。体調不良時等その人に合わせた調理方法を取り入れ栄養の確保を行っている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシの使用が難しい方はスポンジブラシや口腔ケア用ガーゼを使用し、嚥下・咀嚼がスムーズに測れるように口腔ケアを実施している。口腔内・義歯の状態に困難が生じた時は、併設している診療所と連携し、歯科往診の手配を行っている。専門職から指導頂いたケア方法は会議や方法を掲示する等し全職員に周知している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人尊厳と出来る力を評価し、排泄習慣に合わせて援助している。確認表を利用し、個々に合った排泄の方法を選択している。職員会議にて随時使用するパットや声掛けのタイミングの見直し等行っている。	布パンツを使用している利用者は数名で、他はリハビリパンツであるが、7割以上の利用者がトイレで排泄している。今後も、利用者が立位や座位を保てるようにと、全利用者に一日に最低一度はトイレで座ってもらうようにしている。睡眠リズムと排泄リズムは利用者によって異なるので、夜間の見回りの際には利用者のリズムに合わせて排泄支援をし、睡眠を優先させる場合もある。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方へは、特に水分補給(起床後すぐの白湯等)を行い、運動も促している。併設している診療所と連携し、助言を得ている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今までの生活習慣に沿う形で時間などのご希望やペースを尊重している。入浴の時間、温度など希望も聞き取り、入浴剤を選べるようにしている。入浴の曜日は固定せず、2日～3日で声かけをするようにしている。	2ユニットともリフト浴の設備が有り、全利用者の約6割が使っており、安心して安全な入浴が出来ている。自立度が高く、職員は見守りだけをしている利用者もある。利用者が代わる都度、湯を入れ替えており、利用者は3種類の入浴剤の中から好きなものを選んで入浴を楽しんでいる。季節湯として柚子湯を楽しんだこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自身の生活のペースを最優先しながら、一人一人に合った臥床時間を設定し昼夜逆転を防いでいる。また日中の活動量を増やし、夜間帯にしっかり睡眠出来るよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された場合は、薬の理解と服薬経過の把握・様子観察し、診療所との連携を図り、変化に随時対応している。ダブルチェックを行い誤薬・服薬忘れの防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当を設置し、個別に情報収集を行い、役割を見出している。訴えが少ない方、拒む傾向が強い方へも随時気分転換の機会を設けている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年はご家族と遠足に出掛けたり。個人の買い物・誕生日での外食レク等外出支援をしているが、今年度は新型コロナの影響で外出できていない。	コロナ禍で外出は自粛を余儀なくされている。散歩で敷地内を歩くか、隣接事業所の屋上へ行って花を眺めることで気分転換の機会を作っている。室内での簡単なボール遊びやテレビの歌番組が、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金への執着やお金を持つことの安心感を理解し、必要に応じて所持して頂いている。紛失や買物依存がある方には、ご本人・ご家族と協議し、収支の管理を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎの支援を行い、ご家族、ご友人と自由に連絡できる環境を提供している。届いたはがき・手紙は本人に手渡し、交流継続への支援をしている。手紙の投函も代行している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂けるよう、室温・換気の配慮をしている。家庭的な雰囲気を大事にしつつ季節に応じた飾りつけやイルミネーションなどご利用者に、季節を感じて頂ける装飾も行っている。	リビングにはソファと大きなリクライニングチェアが置いてあり、全体としてゆったりとした感じである。1階のリビングは床暖房が施されている。事業所全体が空気清浄機によって清潔に保たれ、キッチンで作る調理の匂いやコーヒーメーカーから漂う香りが、温かい家庭の雰囲気を醸し出している。居室の前に一直線に伸びた長い廊下が、生活リハビリとしての歩行訓練の場となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が自由にエレベーターで行き来でき、違う階に遊びに行かれる方や、就寝前までの時間をご自由に過ごせる環境を作っている。またリビングから離れた所に畳の椅子を設置しており居室以外でもひとりになれる空間を作っている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具、音楽を好まれる方にはよく聞かれていた音楽のCD等を持参して頂き、心地よく過ごせるよう工夫し、ご家族にも協力を得ている。	ユニットごとに2室有る和室には、フローリングの部分の他に4畳半の畳の間と押入れがある。和室以外は全室フローリングである。居室の目印としてドアの横に花や鳥のイラストがはめ込まれている。事業所からは、照明、エアコン、トイレ、ミニキッチン、天袋、小机と椅子、ベッド、防災カーテンが準備されている。利用者は使い慣れた整理ダンス、昔描いた油絵、家族写真、ぬいぐるみ、遺影などを置いて、それぞれが過ごし易い空間を作っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントにて一人一人の出来ることや、わかる事を把握し、ご本人・ご家族職員と協議し、生活導線の見直しや、居室内の配置換えを行い、安全で自立した生活が送れるよう支援している。		

(様式2)

事業所名:グループホーム宝塚ちどり

目標達成計画

作成日: 令和3年7月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の議事録が閲覧できない状況にある	新型コロナウイルス禍の中でもグループホームの取り組みについてご家族が理解できるようにする	運営推進会議の議事録の送付について検討する	12か月
2	35	(継続課題)同じ敷地内で部署が違えば、緊急時等にご利用者の状態が分からない可能性がある	事業所内で統一した要避難者の状態把握について理解できるようにする	各部署が参加する防災安全チームの場で、統一した判定基準を作る	12か月
3					月
4					月
5					月

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()